

# 川島小学校・くぬぎ台小学校 小規模校対策検討委員会ニュース

発行日：平成24年2月24日

発行：検討委員会事務局

## 第6回検討委員会 開催

☆平成24年2月2日(木)19時00分から  
西谷中学校・会議室にて  
検討委員33名中24名出席

### 第6回検討委員会

#### 「議題」

- (1) 通学安全について（・想定通学路の点検 ・要望書）
- (2) 通学区域の調整について
- (3) 統合の形態について
- (4) 学校名等について
- (5) 意見書について



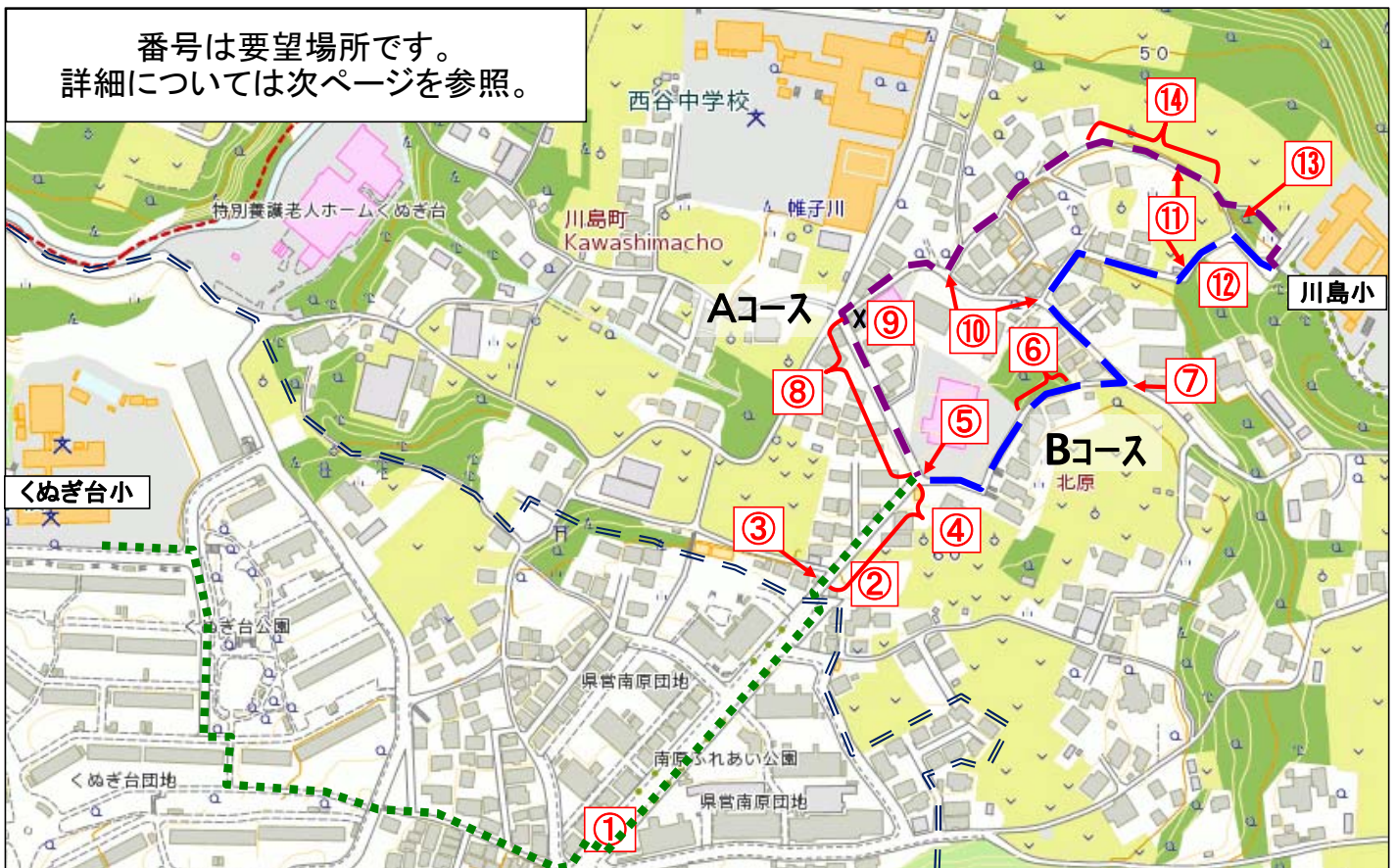
### 確認・決定事項

- 1月17日に実施された、想定通学路の点検報告があり、指摘された場所について、検討委員会の要望書として保土ケ谷区長および保土ケ谷警察署長に提出することを確認しました。
- 統合校の通学区域の調整については次のように決定しました。
  - ①鶴ヶ峯小学校または市沢小学校との「特別調整通学区域」については、両校の施設上の理由から難しいため設定しない。
  - ②統合年度に限り、交流期間の状況等により、配慮が必要な児童に対しては、鶴ヶ峯小学校または市沢小学校への「指定地区外就学」で対応する。
- 統合の考え方については、「両校の歴史を引き継いだ上で、統合校を開校する。」こととし、「創立年は明治8年、統合開校年は平成25年（目標）」とすることとなりました。
- 新しい学校名は、「川島小学校」に決まりました。
- 検討委員会で検討したことをまとめた意見書については、提案された原案を基に、委員長・副委員長と最終調整をした上で教育委員会（教育長）に提出することを確認しました。
- 統合時期の最終判断は委員長・副委員長に一任されました。
- 統合校の校歌・校章については、統合準備委員会（仮称）を設置し、検討することとしました。

### 通学安全について 想定通学路の点検

通学路として想定されるのはAコースとBコースの2コース

番号は要望場所です。  
詳細については次ページを参照。



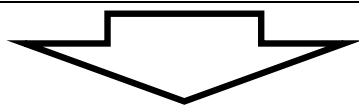
- ・団地の方からバスの折返し場までは道幅も広く歩道も有るが、バスの折返し場の出入口の所から道が狭くなる。また、バスの出入口には特に注意を促すものが無いので、停止線や登下校時に誘導員の配置をして欲しい。
- ・実際に歩いてみると、住宅街の中を歩くので心配が軽減されたと思うし、不安な場所も明確になって良かった。
- ・当日は晴れていたのに、雨の日や、夕方等にも歩いてみることは必要ではないだろうか。

○今後、通学安全について要望があった場合どうなるのか？

→検討委員会以後の通学路の改善等の要望は、両校のスクールゾーン対策協議会で検討していくことになります。

川島小学校とくぬぎ台小学校の統合に伴う通学安全に関する要望書【概要】

	要望場所	要望内容	要望理由
①	石原薬品前の横断歩道	押しボタン式信号機の設置	渡る道が広い、安全確保
②	相鉄バス折返し場周辺	道幅の拡張 登下校時に誘導員の配置 バス出入口と道路の境界の明確化 (白線やマーク等)	歩道が無くなり道幅が急に狭くなる バスの出入りに注意が必要 出入り時にバスが道幅一杯に膨らむ
③	バス折返し場の向い	ガードレールの補修または撤去	なぜあそこにだけガードレールがあるのか ガードレールがあることにより道幅が狭まっている
④	バス折返し場から サヴァイクリニックの角	白線(路側帯)やカラー舗装 路面標示「スクールゾーン」等	車道と歩道の区別が無い 下り坂で車がスピードを出したまま通る
⑤	サヴァイクリニックの角	子ども目線のカーブミラーの設置	見通しが悪く道幅が狭い
⑥	川島町1229番地 の辺	金網の付け替え	金網が破損して危険
⑦	川島町1228番地5 の角	角の空間に何らかの対策 学校への目印の設置 (パンダマーク・飛びだし注意等)	子どもが乗って遊びそうなので事前対策 学校の方向が分かりにくい 安全確保
⑧	サヴァイクリニックから 駐在所までの道	白線(路側帯)やカラー舗装 路面標示「スクールゾーン」等	車道と歩道の区別が無い 車がスピードを出したまま通る
⑨	川島町駐在所	登下校時の巡回の継続と 警察官等の駐在	通学時の安全確保、車の進入等の見張り
⑩	川島町1188番地2 川島町1177番地2 の角	学校への入り口の表示	学校への道が分かりにくい
⑪	川島町1178番地、 1180番地、1181番地 の辺	街灯の設置	街灯がないので夕方や夜は暗そうで不安
⑫	川島町1168番地 (すすき野原)	すすきの刈取り	うっそうとしていて見通しが悪い
⑬	祠の周辺	フェンスの設置	転落防止
⑭	川島町1180～1182番地 の道	雨水の排水対策	排水溝が無く、それなりの雨が降ると水浸しになり、なかなか乾かない

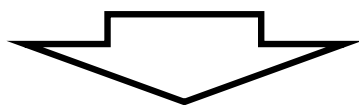


以上の要望場所について、「川島小学校とくぬぎ台小学校の統合に伴う通学安全に関する要望書」として、保土ヶ谷区長および保土ヶ谷警察署長に提出することを確認しました。

通学区域の調整について

第5回検討委員会で、検討委員会事務局より次の提案がありました。

- 鶴ヶ峯小学校または市沢小学校との「特別調整通学区域」については、両校の施設上の理由から難しいため設定しないこととする。
- 統合年度に限り、交流期間の状況等により、配慮が必要な児童に対しては、鶴ヶ峯小学校または市沢小学校への「指定地区外就学」で対応する。



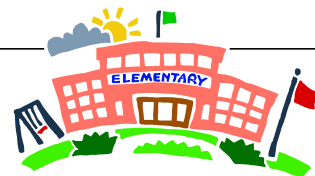
以上の事務局提案について、了承されました。

なお、統合校の通学区域については、第3回検討委員会で、川島小学校とくぬぎ台小学校の通学区域を合わせたものとして確認されています。

## 統合の形態について

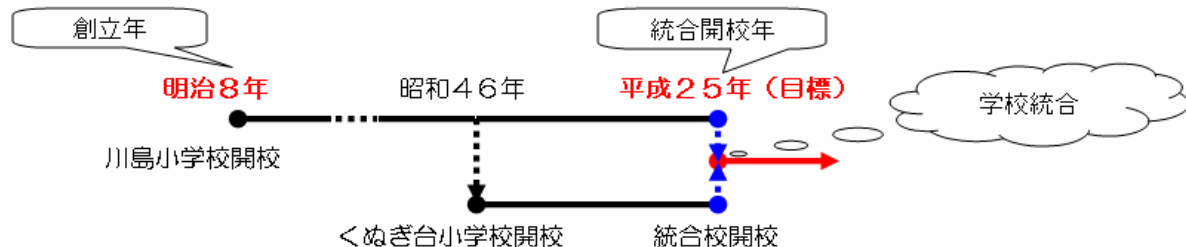
統合の形態について、検討委員会事務局の考えが提示されました。

- 両校の歴史等を引継いだ上で、統合校を開校する。  
(両校を閉校するのではなく、両校の歴史等を引継ぎながら統合校を開校する。)



### [ 開校年について ]

「統合校の創立年は明治8年として、統合開校年は平成25年（目標）とする。」



### [ 新しい学校としての取り組み ]

- ・「統合校の教職員に対する意識啓発を徹底する。」  
(現川島小学校、くぬぎ台小学校教職員含む)
- ・「統合準備委員会（仮称）を設置し、新しい学校としての必要事項を検討する。」  
【検討事例】新しい教育方針、学校行事、両校の開校記念日の取扱い、両校の歴史について学ぶ機会の確保 等

以上の事務局提案について、了承されました。

統合について、どのような考えを持っているのか、それぞれの検討委員に聞きました。

- 両校を対等な立場で統合をということだったが、それは両校が共に小規模校の場合の話なので、小規模校でない川島小の校名・校歌・校章を変えるというのはおかしな話ではないか。沢山の矛盾点が教育委員会から出されている。基本的なところに立ち返って検証していかないとこれ以上こういう話をつづけていくことは無駄だと思う。もしギャップがあるのであれば冷却期間を置いて、土俵が整った時点で話をもう一度始めればいけないか。学校名、校章、校歌を別々に扱うべきではないので、一つのものとして進められるのであればこの先があるかもしれない。本来は通学路の安全や、一つの校舎で学ぶことになった時に、両校がこれまで取り組んできた、いいところを混ぜ合わせて、両校の子どもたちができるだけ嫌な思いが少なくなるような工夫を検討するべきではないか。教育委員会の言ってきた「白紙で、対等で」というもっともらしいようで紛らわしい表現で、考え方に差ができていないのではないか。
- 交流の中で名前が出て、私は川島の名前にはこだわらないが友達の中には川島小でなくなると寂しいという人もいた。
- 校名、校歌、校章をセットで考えなければという考えでは、話し合いが行き詰まってしまうのではないか。地域も協力して子どもたちが一番望ましい形に統合されて、百年、二百年と続いてほしい。
- 両校それぞれ元気よく明るい子どもたちなので、統合してよかったと思えるような形にしたい。
- 統合に向けて検討を続けてもらいたい。
- 子どもたちの意見を聞いていない印象を受けた。子ども同士で話し合えばいい知恵が出るのではないか。
- 学校名は大体町名になっているので川島のままでよいのではないか。どうしても「くぬぎ」をいれたいのであれば「川島くぬぎ」でもいいのではないか。しかし、名前が長くなるよりは川島でいいのではないか。
- 初めから統合ありきという教育委員会の青写真にのっとって話し合いが進んで来たのではないか。最初にくぬぎ台小学校・川島小学校の中で保護者と子どもたちが、本当に統合がいいのかという事を話し合っただけで子どもたちの意見を取り入れればよかったのではないか。
- 川島小は歴史があり、歴史は大事ではないか。
- 川島小卒業生の子どもに聞いてみたが、川島という名前にはこだわらない様子だった。年代によって違うのかと感じた。
- 対等という言葉を中心にしているのでそのまま検討を進めていきたいと思う。
- 川島町には歴史があるので川島小でいいのでは。古い歴史のある学校は残してほしい。
- みんな子どもたちのことを思っている。大事な部分については教育委員会が悪者になっても、大きな方向決めについてははっきりと物を言うべきだった。

- 江戸時代から川島村はあるのだからそういう時代の残っている学校がなくなるという事がおかしいのではないか。いままでどおり川島でいいのでは。
- 学校名については川島をお願いしたい。校歌・校章についてはみんなで検討してほしい。統合校の教職員について、いろいろと難しいことがあると思う。教育委員会には人事で軸となる人を慎重に決めてほしい。
- 教育委員会がこうだという信念を持ってしっかりしないといけない。
- 一方的に川島一本にすることはすぐには難しいと思うので、時間をかける必要はあると思うが、川島という名前は無くしてほしくない。
- 子どもたちのことを考えるのは当然で、運営上の問題ではないかと思う。校名とか校歌とかは、子どもたちにはあまり影響はないと思う。歴史というものは結構重い。お互い感情で決めるよりも学識のある人に考えてもらうのも良いのではないか。できれば川島をそのまま残していきたい。
- 統合校になった時の一年生や、それ以降の子どもたちのことを考えた時に、その子たちのケアも考えていかなければならないと思う。川島町にある学校というのが一番シンプルな考え方だと思う。校歌・校章についても校名を軸に考えていくべきだと思う。いつまでも川島小・くぬぎ台小と引っ張っていくのではなく、お互いの歴史を大事にしながら今のままの校歌を残していくのがいいのではないか。もう一つの校歌は歴史の1ページとして愛唱歌として歌っていくのがいいのではないか。
- 統合という意味を皆さんにわかってもらいたい。銀行や企業が統合となった場合、両方の名前をくっつけて長い名前にすることが普通だと思う。長い名前子どもたちがかわいそうだと思うのであれば、両校の子どもたちにとって新しい学校をつくるという気持ちで、新校名を望みたい。今の子どもたちのことを思い、歴史を捨てるとか消すとかなではなく、両校の歴史は語り続けていくものだと思う。それぞれの学校の歴史、昔はこういうことがあったんだよ、ということのをこれからの統合校の子どもたちに教えてあげることは私たちの役目だと思う。21世紀の子どもたちなので、私たちも考え方とか、思いを少しずつでも変えていかなければいけないのではないか。
- 子どもたちが実際に通学して、引け目や負い目を感じるようなことは現場の対応が問題になるので、そこはしっかりとやる必要がある。「川島」か「くぬぎ台」かの2つのどちらかを選択するというのではない。コンセプトとしてはまったくイーブンという考え方、その理念は捨てられないと思う。子どもたちには教育の現場の中で学校の歴史を伝えていくことは大事だと思う。都会の中での小規模化した学校での教育には限界があるのではないか。

私どもは新校名が良いと考えています。まず、統合校を新校名にしなかったことにより統合後に次のような課題が生まれ混乱してしまった学校の例を紹介させていただきたいと思います。

他都市のある小学校での統合の話です。統合校名は新校名にせず校舎使用校の校名をそのまま使い、校舎使用校のルールは全て活かされました。両校の取り組みの引継ぎや、摺合せもせず、校舎使用校の教員が配置されたため、校舎使用校でない学校の児童は、大規模な転校生と同じ扱いでした。校舎使用校でない児童は、今までの学校とルールが違う等、大変な苦労と心労から学級崩壊が起こったそうです。「それは統合のせいではなく、子どもの資質や教師の力不足」と当時の校長は言ったそうです。結局、悪いのは、あの子、あの先生といったことになり、保護者は「あなたの家庭での教育が悪いから」と後ろ指を指されるのを恐れ、何も言えなくなったそうです。この小学校では、あの時、新校名にしていれば、お互いに「新しい学校」という共通の認識ができて、こういったことが防げたのではないかと考えていたそうです。

今回は、教育委員会や川島小の保護者・PTA・地域の方の協力で色々な子どもたちに対するケアはあると思います。だから、統合後に起こりうる問題は少ないかもしれません。くぬぎ台小学校の子どもたちがそういう思いをすることはないかもしれません。しかし、逆に川島小学校の子どもたちにも不安はあると思います。たとえば、統合前の川島小と同じ様に運動会を春にして、種目はくぬぎ台小のものを多く採用しようとなった場合、元川島小の児童にとって今まで川島小でやっていた種目を今年は自分もできると期待していたのにその種目ができなくなってしまうということがあるかもしれません。大人は「新しい学校なんだから仕方ないでしょ」とその子に言い聞かせるかもしれませんが、その子は「校名が変わらないのになぜ自分は我慢しなければいけないのか」という気持ちがになってしまうかもしれません。そういう気持ちが毎日の学校生活ごと、行事ごとに増えていって、その子の心がパンクしてしまうかもしれません。そういう問題を減らしたいのです。そこで私たちは新しい校名を皆さんにお願いしています。私たち保護者の願いは、統合校に通う子どもたちが統合校を心から楽しみ、心から好きになって毎日元気に学校に通うことです。

(くぬぎ台小学校PTA副会長)

## 学校名について

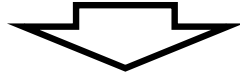
検討委員に広く意見を聞いた結果、学校名について、「川島小の歴史、川島町という地域、といったことから「川島」という名前を残すべき」、「統合校は新しい学校だから新しい校名にして、子どもたちにとっても新しい学校を作っていくという意識につなげたい」という2つの意見をいただきました。そこで、検討委員会事務局から、川島という名前は残しながら、見た目は新しい校名になり、統合校の子どもたちが、新しい学校を作っていくという意識をみんなで見守ることができる、

### 「かわしま小学校」を統合校の学校名として提案しました。

- 【考え方】
- ・「かわしま」という呼び名を残しながら、標記を変えることで両校の考え方に配慮
  - ・現在の「川島小学校」に「くぬぎ台小学校」のひらがな表記を取り入れる
  - ・統合によって「新しい学校」になったという意識を持ってもらう
  - ・地域の名前を大切にすることを児童に持ってもらう。
  - ・アンケートで最も多かった案を参考にする。(432件 内児童応募209件)



検討委員委事務局の提案を踏まえ、あらためて議論した結果、  
①川島小学校 ②かわしま小学校 ③新しい小学校名  
の3案での無記名投票により学校名を決定することとなりました。



検討委員会による投票の結果、「川島」13票、「かわしま」3票、「新しい学校名」6票、白紙1票、  
(出席24名、途中退席1名、投票数23票)となり、統合校の名前は「川島小学校」に決まりました。

## 意見書について

上記までの決定を受けて、教育委員会（教育長）へ提出する意見書の原案が提示されました。

### (原案)

#### 川島小学校・くぬぎ台小学校の小規模校対策に関する意見書

当検討委員会は、横浜市教育委員会が策定した「横浜市立小・中学校の規模及び配置の適正化並びに通学区域制度の見直しに関する基本方針」に基づき、川島小学校・くぬぎ台小学校の小規模校対策について検討するため、昨年7月に設置されました。

この度、以下の事項について意見をとりまとめましたので、申し述べます。

- 1 小規模校対策の計画案
  - (1) 小規模校対策についての考え方  
児童の教育環境の維持・向上を図るため、小規模校化しているくぬぎ台小学校と、川島小学校の2校を統合すべきと考えます。
    - ア 小学校の通学区域  
基本的に、現在の川島小学校、くぬぎ台小学校の通学区域を合わせた学区が適当と考えます。
    - イ 中学校の通学区域  
現在両校ともに指定されている西谷中学校について、統合後においても現状のままとすることが望ましいと考えます。
  - (2) 統合の実施方法
    - ア 統合後に使用する学校施設は、現在の川島小学校が適当と考えます。
    - イ 統合の時期は、平成 25 年4月が適当と考えます。
- 2 統合校の学校名  
統合校の名称は、「川島 小学校」とすることが適当と考えます。
- 3 通学安全要望  
通学安全については、多面的な視点で児童の通学安全を確保する必要があると考えます。  
具体的には、今後、両校の学校関係者、保護者、地域が中心となって、
  - 通学路及び通学区域の危険箇所の点検
  - 通学路案の検討・設定
  - 通学路の安全マップの作成
  - 通学安全パトロールの強化
  - 見守り隊の拡充などに取り組んでいきます。  
なお、小規模校対策による統合という事情も考慮し、必要な改善及び支援については、教育委員会並びに区役所など、関係機関は最大限の努力をお願いします。
- 4 統合校の特色づくりについて  
両校の教育関係者は、地域の期待やニーズも踏まえて、教育内容の充実に取り組むとともに、教育委員会も必要な支援を行うよう配慮をお願いします。  
統合校の教育方針については、今後両校の校長等を中心とした統合準備委員会（仮称）を設置し、開校までの間に十分な検討を行い、この川島小学校・くぬぎ台小学校の地区にふさわしい特色ある学校づくりをお願いします。

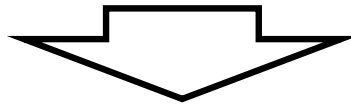
## 5 その他、統合に当たっての要望

- (1) 統合までの期間においては、両校で「両校の歴史を引き継いだ上で、統合校を開校する」という考え方にに基づき、交流事業や統合校の教育目標の設定等を進めていただき、統合校への円滑な移行を促進するようお願いいたします。
- (2) 統合校の特色づくりに基づいた教育環境の確保のため、必要な施設整備について、最大限の努力をお願いします。
- (3) 統合校の円滑な運営を図るとともに環境変化に児童が順応できるよう、統合校の教職員は、できるだけ両校の教職員を配置するよう配慮をお願いします。
- (4) 今回の統合により誕生する「川島小学校」には、これまで2校が築いた歴史を尊重し、できる限り関係資料等の保存・記録をお願いします。

### むすびに

川島小学校・くぬぎ台小学校の地区において、今回の両校の統合を契機に、保護者や地域住民による見守り活動や様々な学習活動への参画など、学校との連携・協力体制をより一層推進していきたいと考えています。

横浜市においても、地域住民との協働を推進し、当地区がより良いまちとなるよう各種事業を推進されるよう要望します。



提示された意見書の原案を基に、委員長・副委員長と最終調整をした上で教育委員会（教育長）に提出することを確認しました。

## 統合時期について

統合時期については、第5回検討委員会において、「平成25年4月を目標とする（平成24年3月末までに、今後の状況を考慮して統合時期を決定する）」ことが確認されています。今回で小規模校対策検討委員会は終了することとなりましたので、統合時期の最終判断については、委員長・副委員長に一任されました。

## その他

統合校の校歌・校章については、統合準備委員会（仮称）においてあり方を検討することになりました。

今回の検討委員会をもって「川島小学校・くぬぎ台小学校」小規模校対策検討委員会は終了しました。これまでにご協力いただきました、地域・保護者の方々にお礼申し上げます。

なお、検討委員会については教育委員会（教育長）に意見書の提出をして解散となります。川島小学校とくぬぎ台小学校の統合については、教育委員会の議決を経て、市会に提案し議決されれば正式決定することとなります。

### 【検討委員会終了後の予定】

★平成24年2月17日（金） 教育委員会（教育長）へ意見書を提出しました。

【意見書の提出の様子は「検討委員会ニュース最終号」（平成24年3月下旬配布予定）でお知らせします。】

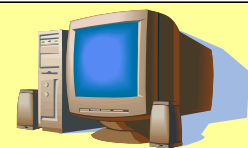


「川島小学校・くぬぎ台小学校」小規模校対策検討委員会の経過、横浜市の基本方針等はホームページでもご覧いただけます。

・基本方針など <http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/kyoiku-info/gakku-houshin.html>

・「川島小学校・くぬぎ台小学校」小規模校対策検討委員会

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/gakku/shoukibo/>



「川島小学校・くぬぎ台小学校」小規模校対策検討委員会に、ご意見をいただきありがとうございました。

\*「川島小学校・くぬぎ台小学校」小規模校対策検討委員会事務局（学校計画課）

TEL：045-671-3252 FAX：045-651-1417Eメール：ky-hodogaya@city.yokohama.jp

